

声を掛け合って地域で避難

横山1区、2区は、南沢地区として合同での夏祭り開催など、地域の伝統行事を何十年も継続するほど絆が強い地域です。こうした一体感は、防災に関しても同様で、毎年2つの行政区合同で防災訓練を開催しており、大人に交じって子どもたちも訓練に参加しています。



津山町横山2区

堀田 公雄 さん(68)

ひとたび災害が発生すれば、自助、共助により素早く対応してきた地域であり、昨年の台風19号の時も、近所の声掛けが避難につながった例があります。これからも、地域のつながりを絶やさず、災害時にはお互いに声を掛け合って避難するようにしたいですね。

警戒レベル3が発表されたら避難を開始。最上級の「警戒レベル5」は災害が既に発生している状況です。避難所などへの避難が難しいため「命を守るための最善の行動」が求められます。また、警戒レベルは、必ずしも1から順番で発令されるわけではありません。状況が急変することもあります。避難情報が発令された場合には、テレビやラジオ、インターネットなどのほか、防災行政無線や広報車などで伝達されます。地震とは違い台風の進路や規模は、ある程度予測することが出来ます。皆さんが早めに防災対策ができるよう、気象庁は台風や大雨などに関する防災気象情報を随時提供。一般的な警報や注意報に先立ち、台風や大雨に関する気象情報などを発表しています。市から避難情報が発令されていなくても、気象情報などを参考にしながら、適切に避難することが求められます。

警戒レベルに応じた避難行動

「警戒レベル3」が発表されたら避難を開始。最上級の「警戒レベル5」は災害が既に発生している状況です。避難所などへの避難が難しいため「命を守るための最善の行動」が求められます。また、警戒レベルは、必ずしも1から順番で発令されるわけではありません。状況が急変することもあります。避難情報が発令された場合には、テレビやラジオ、インターネットなどのほか、防災行政無線や広報車などで伝達されます。地震とは違い台風の進路や規模は、ある程度予測することが出来ます。皆さんが早めに防災対策ができるよう、気象庁は台風や大雨などに関する防災気象情報を随時提供。一般的な警報や注意報に先立ち、台風や大雨に関する気象情報などを発表しています。市から避難情報が発令されていなくても、気象情報などを参考にしながら、適切に避難することが求められます。

避難の目安になる警戒レベル

警戒レベル	避難行動	避難情報
5	既に災害が発生しています 命を守るための最善の行動をしてください	災害発生情報
4	速やかに避難所へ避難してください 避難所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう	避難勧告 避難指示(緊急)
3	避難に時間がかかる高齢者などは、危険な場所からの避難を開始してください その他の人は避難の準備をして自発的に避難をしてください	避難準備 高齢者等避難開始
2	避難場所や避難経路の再確認をするなど、避難に備え自らの避難行動を確認してください	洪水注意報 大雨注意報など
1	防災気象情報等の最新情報に注意するなど、災害への心構えを高めてください	早期注意情報

高 危険度 低

「まだ大丈夫」ではなく早めの行動

災害時には、避難が遅れると大きな事故につながる恐れがあります。「まだ大丈夫」と考えず、声を掛け合い避難を始めましょう。助け出すのではなく連れ出すことを考えましょう。

情報に基づいた的確な避難行動を

自然災害については、発生の恐れが高くなった場合、気象情報や避難情報などに基づき自らの判断で、

的確な避難行動をとることが必要です。避難の判断は、水害や土砂災害発生の危険性が高くなった時、危険度が分かりやすいように、避難情報と避難行動の対応を明確にし

た5段階の警戒レベルが目安になります。警戒レベルを確認しながら家族や地域で声を掛け合うなどの的確な避難が求められます。

声掛けの効果で避難を促す

広島県が平成31年に実施した県民意識調査によると、避難した人の多くが、近所の人や消防団からの呼び掛けが避難のきっかけになったと答えました。災害時は、自分に及ぶ危険を低く見積もり、避難を先延ばしにする傾向があります。身を守るためには、まだ大丈夫と考えるのではなく、避難行動につながりやすい周囲への呼び掛けをしなが、余裕をもって避難することが大切です。

避難のタイミングを逃さずに

津山の台風19号による豪雨では、津山町横山久保地区周辺の多くの家屋が床上浸水などの被害に遭いました。



津山町横山4区

佐々木 博尚 さん(47)

「自分は自宅で安全を確保できましたが、今回の経験から、人は迫りくる災害に備え、避難の準備を怠りません。その状況での避難を考えると、豪雨で視界の悪い夜間の移動は大きな危険を伴います。」

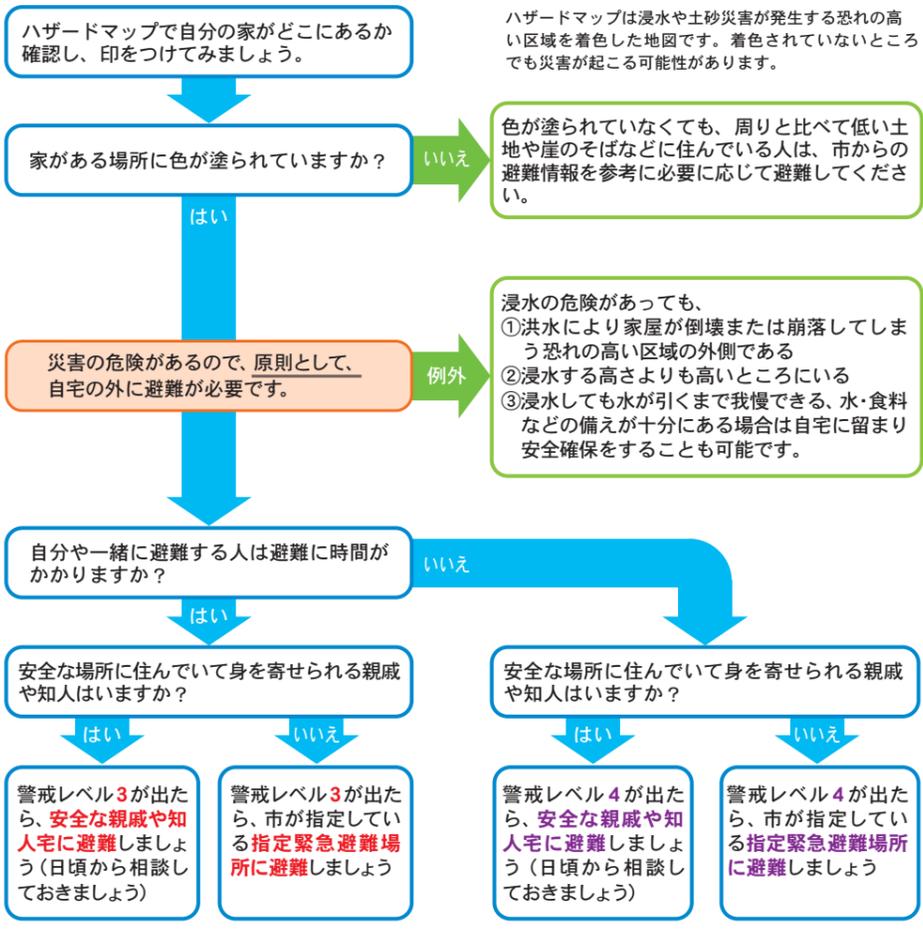


「かつてない規模の台風であるとの報道や市メール配信サービスの情報により、避難の必要性を強く感じていました」と話す佐々木さん。しかし、午後9時を過ぎても付近の河川に大きな水位上昇は無く、スマホで雨雲レーダーを見ても、強い雨が降る気配もないため、身近に迫る危険を感じていませんでした。付近の河川が一気に増水

市から避難情報が発令されていなくても、気象情報などを参考にしながら、適切に避難することが求められます。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？



※出典：内閣府防災ホームページ